

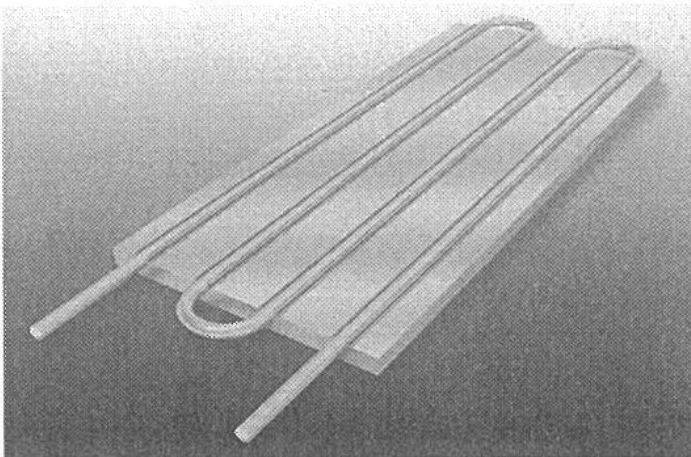
丸三電機、二重管を採用

アルミとステンレス圧着

水冷ヒートシンク配管

丸三電機（東京都千代田区、竹村元秀社長、03・3253・0411）は、水冷ヒートシンク（放熱器）の水路の配管に、ステンレス管をアルミ管で覆った二重管を採用した新製品の受注を17日から始める。主流の銅管に比べて耐食性が高いため、冷却水管理などのメンテナンスコスト削減を図れる。価格は仕様によって異なるが、銅管の1割高程度とし、既存のステンレス管よりも抑える。半導体製造装置、溶接機向けなどに提案する。二重管式で2014年5月期に売上高6000万円を目指す。

水冷ヒートシンクは配管で水路を形成し、装置稼働時などに生じる熱を逃すための組み込み部品。銅管は腐食しやすいため、純水や不凍液を用いる場合が多い。アルミとステンレスを密着性に優れている引き抜き加工で圧着し、放熱性能を確保した。内部のステンレス管は最薄0.5ミリで



加工できる。水路の土台となるアルミ板を折り曲げて配管を固定する「かしめ加工」で接合できるため、ステンレス管よりも低価格化

17日発売の二重管式水冷ヒートシンク（イメージ図）

.....
できる。ステンレス管は硬いため、同加工が難しく、「溶接などで固定するため、価格が銅管の何倍もした」（宿谷誠取締役）としている。

同社はヒートシンクメーカー。14年5月期は全社売上高13億円の見込み。二重管式で17年5月期に売上高1億円に育てる。